

令和7年度 十三中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

<国語> 全国と比較して、平均正答率は+0.7であり、「話すこと・聞くこと」の領域は-2.4「書くこと」の領域は+3.2「読むこと」の領域は+0.1であった。「話すこと・聞くこと」の分野において、全国平均よりも低い点となっているため、文章の要点整理や作文の構成と効果に関して練習の時間を設け、文章の内容や自分の考えを整理し、効果的に伝える力を身に付ける必要がある。

<数学> 大阪府と比較して、平均生徒率は、「数と式」は+3.0点、「図形」は-0.4点、「関数」は+1.4点、「データの活用」は+0.3点であった。図形の分野で下回っていたため、解説の時間をとることや、解説プリントで解き方を示していく機会を増やす必要がある。

<理科> 平均正答数及び平均IRTスコアとも全国平均、大阪府平均を大きく下回った。特に、上位層の割合が極端に低い結果となった。中・上位層の理解度の底上げが今後の課題であるため、発展問題にチャレンジする機会を授業や課題で増やす。また、記述問題の正答率が低いため、その対策(自分の考えを書く練習)を意識的に行う必要がある。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

平均点は大阪府と比較して、-1.3点であった。ほとんどの分野が大阪府の平均点と同程度の点数であるが、「現代文」に関する分野では正答率が大阪府の平均よりも高くなっている問題が多いのに比べ、「行書」「漢文」「古典」に関する分野においては、大阪府の平均よりも低くなっている。「行書」「漢文」「古典」の分野は大阪府の平均点よりも大きく下回っている問題もあるので、楷書と行書の違いや、漢文の読み方、歴史的仮名遣いと古語などを主題とした復習の時間を定期的に設け、学習を続けていく。

<社会>

平均点は大阪府と比較して、+0.8点であった。それぞれの分野で大阪府と比較すると「地理的分野」では+0.2点、「歴史的分野」では+0.5点であった。今後は、1点以上上回るように、日頃から小テストやノートの振り返りを活用して、知識を定着させていく。問題形式の「記述式」が大阪府の平均得点率よりも下回っているため、一つ一つの語句の意味を理解して、文章をまとめる課題を設定していく。それぞれの分野での得点率が低い学習内容があった。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、+0.7点であった。どの分野においても大阪府の平均点と同じような値だったので、1点2点上回れるように、演習の時間を取りながらさまざまな解法を伝えていくことを続けていく。「データの活用」の分野では-0.1点だったため、実際の事象を例に取り組みを増やしていく。立式する問いに対しての無回答率が高くなってしまっているため、自分なりに式をつくれるように授業中でも発問を増やして、自分で考える時間を作っていく。

<理科>

平均正答率は大阪府と比較して、-4.7ポイントであった。また、領域別の平均正答率は「エネルギー」の分野は-0.7ポイント、「粒子」の分野が-0.3ポイント、「生命」の分野が-2.7ポイント、「地球」の分野が-1.0ポイントであった。知識技能における平均正答率は、-2.6ポイント、思考判断表現における平均正答率は、-2.2ポイントといずれも大阪府平均値を大きく下回っている。また、カリキュラムにおいて、直近に学習した内容の正答率も低いいため、基礎的内容の定着が大きな課題である。

<英語>

平均点は、大阪府と比較して、-1.8ポイントであった。どの分野においても大阪府の平均点と同じような値ではあるが、「書くこと」が-1.2ポイント、「読むこと」が-0.7ポイントであった。長文読解を利用しつつ、英作文にも力を入れ、学習を続けていく。「聞くこと」は大阪府平均と比べ、+0.4ポイントであるため、引き続き英文を聞く時間を継続したいが、「書くこと」「読むこと」が平均より低いため、英文を読む、英作文を書く、時間を定期的に設け、学習を続けていく。

○中学生チャレンジテスト(2年生)

<国語>

知識及び技能については大阪府の平均点をほぼ上回ることができた。短答式や記述式問題の正答率が大阪府の平均を下回っているため、今後は授業の中で自分の考えをまとめる、資料を読み取り要約する、というような学習内容を増やしていく。

<社会>

平均点は大阪府と比較して、0.9点高い。中央値が大阪府平均よりも1.0点低く、30～34点の生徒が一番多い得点分布となっているところが課題の一つである。次回は、平均点だけでなく中央値も大阪府の数値を超えられるように努力したい。その上で、記述式問題の正答率を高めたい。記述式問題に限っては、大阪府平均よりも2.2点下回っている。普段の授業から、物事を正確に捉え、頭の中で順序立てて自ら文章化する力を育成していきたい。

<数学>

平均点は大阪府と比較して、4.1点高い。すべての分野において大阪府と比べて高かった。図形分野における正答率の差が1%で一番小さい値だったので、ICTを活用し、視覚的にも問題をとらえるなどの授業改善を行い、練習問題を増やしていきたい。

<理科>

2学期に実施した「粒子」の範囲は大阪府の平均点を上回ることができた。学習した時期との差があることで記憶が曖昧になっているところがみられるため、長期的な記憶の定着に向けて、主体的な学習を心がけていく。

<英語>

平均点及び中央値は大阪府の平均点より高い。30～44点台の生徒数が全体の約30%と高く、平均点に達していない生徒は基礎事項の定着ができていないように思える。第3学年に向けて、これまでの学習(特に時制及び三人称単数現在形)を振り返る必要があると今回の結果を受けて強く感じる。また、第3学年になる上で、必要な語彙数も不足しているようにも思える。語彙数を増やす戦略も練っていく必要があると併せて考える。